

テレビ静岡 平成27年7月度 番組審議会概要

平成27年7月9日(木)
14時00分～15時00分
テレビ静岡本社

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 上柳 正仁 齋藤 照安 深山 茂 藤田 尚徳

— 議 題 —

番組名 FNSドキュメンタリー大賞参加作品
「つなぎ手 ～週3日の平和資料館～」

放送日時 平成27年5月31日(日)
13時00分～13時55分(55分番組)

— 番組内容 —

今日の番組審議会は、5月31日に放送したFNSドキュメンタリー大賞参加作品、「つなぎ手 ～週3日の平和資料館～」について審議した。70年前の6月20日、多くの尊い命が奪われた静岡空襲。しかし、その記憶は薄れつつある。「戦争を、空襲を繰り返してはならない」番組では、静岡空襲を後世に語り継ごうとボランティア活動を続ける小さな資料館の取組みを追った。

- ◎戦争を知らない若い女性ボランティアの目を通して、戦争を語り継ぐ難しさ、大切が十分理解でき、心に響く内容だった。
- ◎これからは戦争を知らない世代が、さらに戦争を知らない世代に戦争を伝えていかなければならないことを痛感させられた番組。
- ◎この番組がなければ、「戦争」「静岡空襲」について考えることはなかったと思う。きっかけを与えてくれて有難かった。
- ◎番組を見て「平和資料館」に行った。街の中に戦争を伝える資料館があることが、とても重要だと理解した。

- ◎登場する「平和資料館」に関する人たちが、本音で語っていて、考えさせられる内容だった。制作者と取材対象者の関係が良かったこともうかがえる。
- ◎若い人だけでなく、一般に戦争に対する知識が薄い。総じて、教育も含めて、戦争を次世代に正確に伝えてこなかったことを痛感させられる番組。
- ◎戦争体験者の描いた絵を紹介していた。悲惨ではあったが、とても説得力があったと思う。
- ◎戦争を伝えることは、映像の力を持つTVが一番適していると改めて感じた。
- ◎若い女性ボランティアが、何故熱心に戦争を伝えていこうとするのか、理由を具体的に知りたかった。
- ◎静岡市だけでなく、県内の他の空襲についても取り上げて欲しかった。
- ◎当時の資料は少ないと思うが、冒頭で何が起きたのかという「静岡空襲の史実」を具体的説明すべき。
- ◎「つなぎ手」というタイトルなのだから、若い同世代の人たちに輪を広げていけるような構成で、光明を見つけて欲しかった。

テレビ静岡番組審議会は8月休会、次回の番組審議会は平成27年9月10日（木）の予定。